

「リウマチ手記」神 幸子 80歳

2014年6月7日

最初に症状が現れたのは、2011年8月頃で、肩がこり、手、背中、首がこわばり、椅子に腰かけるのにも手を椅子について体を浮かせるようにしないと、お尻のあたりが痛いような状況で、いったいどうしたのだろうと思っていた。その後9月19日に整形外科を受診したところ、50肩と診断され鎮痛剤と湿布薬をもらい帰宅した。さらに灸治療にも通ったがなかなか良くならず、脱力感も出てきた。

そして10月25日頃からは寝返りが困難となり、一人で起き上がれず家族に介助されるような状態となった。そうしているうちに、友人から県立中央病院での受診を勧められ、同病院に行ったところ、総合診療部で診察を受けることとなり、そこで、部長先生は、これまでの経緯、症状を聞き、肩、首や背中を押したり(触診?)、血液検査、尿検査などを行った後、薬を処方しました。その後、11月4日には、リウマチ性多発筋痛症と診断されました。この時点では病名が判つただけでも良いと考えていました。

処方された薬は、プレドニゾロン錠5mg2錠1日1回朝食後服用(4日分)で、調剤薬局でも副作用があるとの注意をされた。帰宅したのは午後3時であったが、早速食事後に服薬した。翌日5日の朝には、一人で起き着替えることができ、あまりの嬉しさに家族にも喜びを伝えました。そして、これで治るんだと思っていました。

その後も、継続的に県病院に通院していたが、副作用のこともあり、1日15mg服用していたが、12月には1日10mgに減量し、さらに翌年の7月には2mgまで減量した。しかし、そのころには以前の肩や首のこわばりの症状がぶり返した。主治医に症状を訴えたが、これ以上は治すことができないといわれ、10月には薬の処方も終了した。そのころの症状は、とても疲れやすく起床時には体全体がこわばった状態で、午後には少し解消するという状態でした。また、9月頃からは灸治療も始め、翌年2月まで通院しましたがあまり芳しくありませんでした。

そうしているうちに2013年1月下旬に、甥から松本医院と患者さんの手記の情報を聞き拝見しましたが、青森と大阪の距離を考えると松本医院を受診することには躊躇していました。しかし、自分の体力と体調を考慮し、思い切って3月5日に大阪へと出発しました。その日のうちに松本院長にこれまでの経緯などを聴いてもらい、ヘルペスやステロイド剤、自分自身の治癒力などの話を聞くことができました。また、スタッフからは、薬湯、煎じ薬の作り方などの丁寧な説明を受けました。その後、鍼灸の先生に灸

のやり方の指導を受けたのち実際に鍼灸も受けました。翌日も鍼灸治療を受けましたが、これまで受けたことがないほど素晴らしい鍼灸治療で、ずっと続けたいと思いました。

青森に戻ってからは、煎じ薬を続けて服用していましたが、3日目あたりから1日3回から4回程度、色も臭いも少ない便が出るようになり、この状態が3週間ほど続き、体重が減り体調も少し良くなりました。しかし、まだ、夜寝るときはコロンと転がるように布団に入り、朝起きるときには手首が痛く起き上がるのに苦労し、午前中は首、肩、背中など体全体がこわばっている状態でした。7月に入ると、咳が出始めたため病院に行きましたが、病名を告げると薬を出してもらえず3日3晩苦しみました。その後、少しずつ咳は少なくなり体重の減少もあり、咳の症状は良くなっています。7月下旬には、耳の中でカラカラ音がするため耳鼻科を受診したところ、耳垢が原因とのことで除去してもらいました。しかし、1週間ほどで再び音がするようになったため、再度、耳鼻科に行ったところ、耳に水が溜まっているので、しばらく吸入を続けるように言われ通院していました。

松本医院へ薬を注文する際に、副院長先生にそのことを伝えると「吸入もやらないほうが良い」とのこと。さらに困っている私に様々なアドバイスをしていただきました。しばらくは、左側を下にして寝ると耳鳴りや目まいがしていましたが、最近はそれもなくなり、左耳が聞こえにくいことはありますが不自由は感じなくなりました。

2014年2月頃からは、足首が痒くなり太ももにアトピーが出はじめ、かきむしると血が出たり腫れたりで、とても苦しい状態となりました。現在は、薬湯入浴、エルタシン軟膏を続けています。首や肩などのこわばり症状は緩和されており、以前から比べると快適に日常生活を過ごすことができます。

今は、アトピー症状が少しでも改善していけばと考えています。まだまだヘルペスウィルスとの攻防は続いていくことでしょうが…